

冷凍食品・食品物流業界NO.1の
揺るぎない地位確立へ
—14/3~16/3 中期経営計画—

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

目次

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

【2012年度の実績】	1	【2013年度の施策と見込】	
【新中計のポイント】	2	連結業績見込	12
＜加工食品事業＞		加工食品事業 原材料コスト対策とGFPTニチレイの収益性改善を進める	13
国内では収益性の改善、海外では売上の拡大を目指す	3	低温物流事業 国内新設拠点の投資負担により減益に	14
国内自営工場の生産体制強化で売上高・利益率両面を伸長させる	4	【参考資料】	
成長が著しい北米事業を中心に海外販売を強化する	5	2012年度の連結業績	15
＜水産・畜産事業＞		2013年3月期通期 連結バランスシートの変動要因	16
加工品の取扱比率を高め、収益構造を変革する	6	2013年3月期通期 営業外収支・特別損益の変動要因	17
＜低温物流事業＞		財務戦略の考え方と前中計の振り返り	18
事業環境の変化に合わせて成長戦略の見直しと基盤強化を進める	7	各中計期間の業績の推移	19
東京・大阪圏では能力増強、地方では運送需要の獲得を目指す	8	データ集	20～22
東京・大阪の輸配送拠点強化とTC事業領域拡大で取扱を伸ばす	9		
欧州は事業基盤を拡充、東南アジアはタイを起点に足掛かりを築く	10		
＜財務戦略＞			
ROEと営業キャッシュフロー配分	11		

注:

- ① 当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。
- ② 「前回見込」(2013年2月5日に発表) ‘E」、「見込」は今期の見込、‘P」、「計画」は中計期間年度の計画(2013年5月7日に発表)

2012年度の実績

単位: 億円

	2012年度 実績	前年比	中計比
加工食品	1,840	99	40
水産	637	-20	-73
畜産	755	-1	-145
低温物流	1,564	68	-15
不動産	47	-2	-14
その他	58	-3	-15
調整額	-200	10	54
売上高合計	4,701	152	-167
加工食品	60	9	0
水産	1	-2	-11
畜産	5	-0	-4
低温物流	86	12	4
不動産	23	-1	-3
その他	4	-1	1
調整額	0	0	4
営業利益合計	179	18	-9
経常利益	172	20	1
当期純利益	98	19	5
ROE	8.2%	1.4%	1.2%

主力事業の加工食品、低温物流で営業利益計画を達成

【前中計期間の成果】

1.加工食品

- ①タイのチキン加工品2工場が本格稼働。
- ②肉食・中食市場向けに調理冷凍食品を拡販。

2.低温物流

- ①東扇島DC等の新規拠点稼働による収益基盤拡大。
- ②新規TC受託の拡大。
- ③フランス物流会社買収による西欧域のネットワーク強化。

【問題点】

1.加工食品

- ①販売増加や国内工場老朽化に伴う生産能力不足。
- ②タイのGFPTニチレイの収益性改善が進まず。

2.水産・畜産

- ①環境変化に左右されにくい安定した収益の確保。

3.低温物流

- ①東京・大阪圏の冷蔵倉庫での需給ひっ迫。
- ②輸配送事業の拡大の遅れ。

新中計のポイント

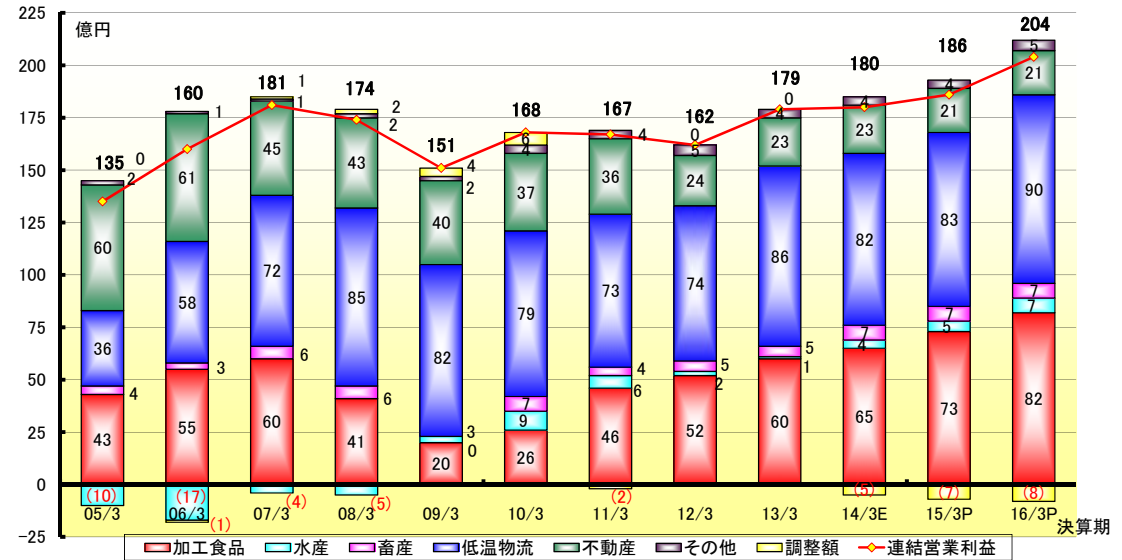
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

単位: 億円

		新中期経営計画			GROWTH 2016
		2013年度 見込	2014年度 計画	2015年度 計画	2016年度 計画
売上高	加工食品	1,943	1,975	2,030	2,000
	水産	650	650	650	800
	畜産	715	725	735	840
	低温物流	1,605	1,726	1,790	1,800
	不動産	48	48	48	50
	その他	36	40	45	36
	調整額	-177	-194	-198	-226
	売上高合計	4,820	4,970	5,100	5,300
営業利益	加工食品	65	73	82	85
	水産	4	5	7	12
	畜産	7	7	7	10
	低温物流	82	83	90	90
	不動産	23	21	21	21
	その他	4	4	5	6
	調整額	-5	-7	-8	-4
	営業利益合計	180	186	204	220
当期純利益	105	110	120	120	
ROE	8.6%	8.6%	8.8%	8%以上	

注: 為替レートは1米ドル98円、1ユーロ120円を想定

セグメント別営業利益の推移



1. 経営資源を主力事業の加工食品と低温物流に集中投下

① 期間中の設備投資額(リース含む)

全体770億円(加工食品302億円・低温物流378億円)

② 海外売上高の拡大

<13/3>364億円→<16/3P>580億円

2. 各事業の主な施策

① 加工食品: 国内事業の収益性改善、海外売上高の拡大。

② 水産・畜産: 顧客志向の営業力強化と加工品へのシフト。

③ 低温物流:

・東京・大阪圏の能力強化と地方の輸配送強化。

・欧州・東南アジアを中心とした海外基盤の拡充。

新中計のポイント

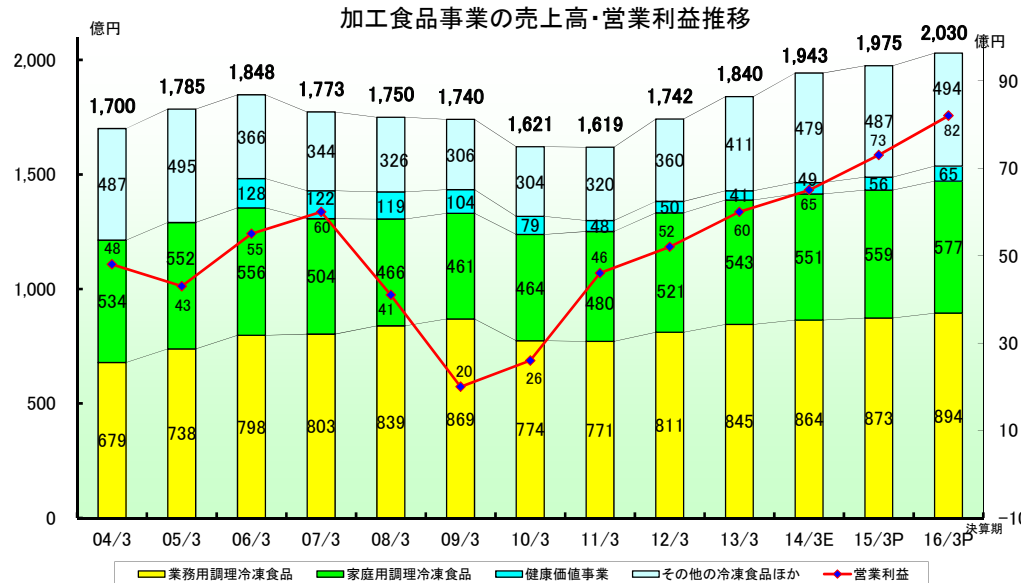
加工食品事業

- 国内では収益性の改善、海外では売上の拡大を目指す
- 国内自営工場の生産体制強化で売上高・利益率両面を伸長させる
- 成長が著しい北米事業を中心に海外販売を強化する

<加工食品事業>

国内では収益性の改善、海外では売上の拡大を目指す

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



営業利益の増減要因(13/3-16/3)

単位: 億円

13/3期 営業利益		60
自営工場の生産体制強化		14
増収効果		14
生産性改善		10
減価償却費増加		-10
GFPTニチレイの業績改善		11
増収効果		9
生産性改善		8
原材料・仕入コストの上昇		-20
16/3期 営業利益見込		82

1.国内事業の収益性改善

- ①家庭用調理品:国内自営工場での主力商品の生産体制強化。
 - ・ライン増設による生産能力拡大。
 - ・ラインの最適配置による生産効率化。
- ②業務用調理品:収益性を重視した商品の開発・販売を強化。
 - ・業態別、顧客別の商品ミックスの改善。
 - ・差別化技術を駆使した商品の投入。

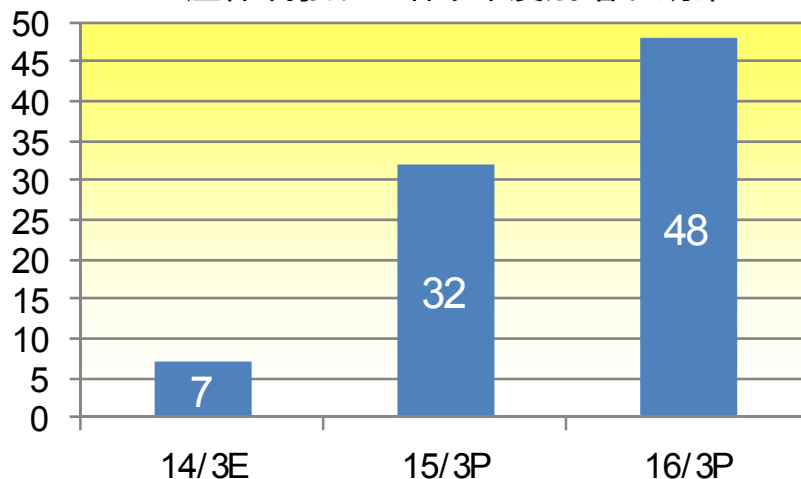
2.海外事業の売上拡大

- ①アジアフーズの売上拡大(北米)。
- ②業務用冷凍食品の売上拡大(中国)。

国内自営工場の生産体制強化で売上高・利益率両面を伸長させる

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

売上高: 億円 生産体制強化に伴う年度別増収効果



第1期	稼働 →
第2期	稼働 →

主力家庭用調理品

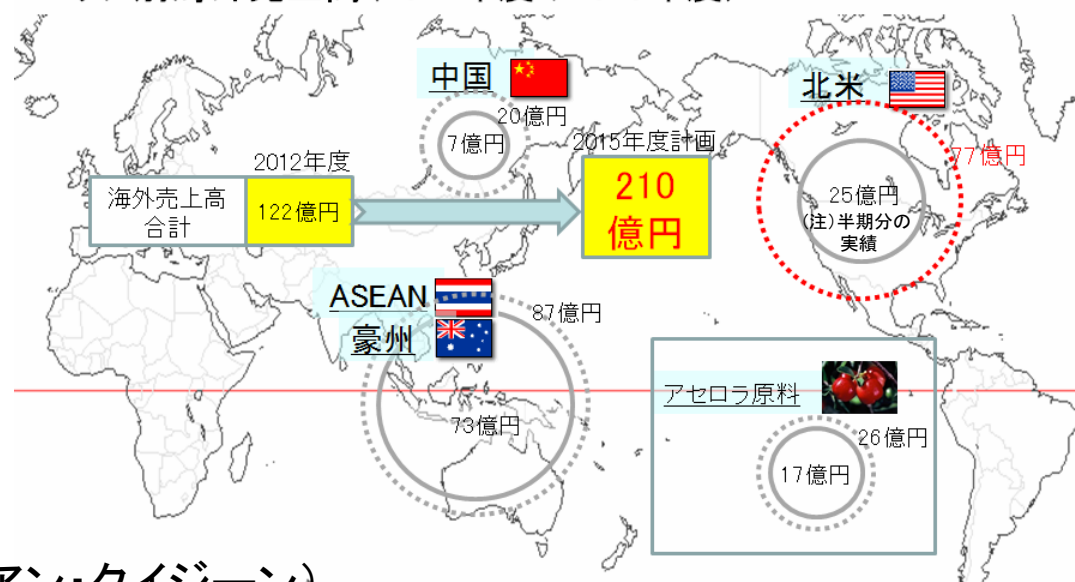


- 1.前中計で注力したチキン加工品に続き、今中計では主力家庭用調理品を中心とした国内生産体制の強化を図る。
- 2.能力面では、最新設備への入替やライン増設を実施し今後の拡販に備える。
- 3.効率面では、商品カテゴリー単位でのライン集約、ラインの能力を活かし切る大型商品の拡販やアイテム集約により生産性を改善する。
- 4.投資規模は約100億円を想定し、中計最終年度の増益効果は約14億円を見込む。

成長が著しい北米事業を中心に海外販売を強化する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

エリア別海外売上高(2012年度→2015年度)



1.北米(イノバジアン・クイジーン)

- ①冷凍食品の企画・提案力などを強みに、大手量販店向けのアジアンフーズの販売を拡大。
- ②現在西海岸を中心に展開しているが、今後は開拓余地のある東海岸においてもブランドの浸透を図る。

2.中国

- ①業務用冷凍食品の販売を拡大。

3.ASEAN(タイ)

- ①GFPTニチレイの欧州向け鶏ムネ肉加工品の販売拡大。

4.アセロラ原料

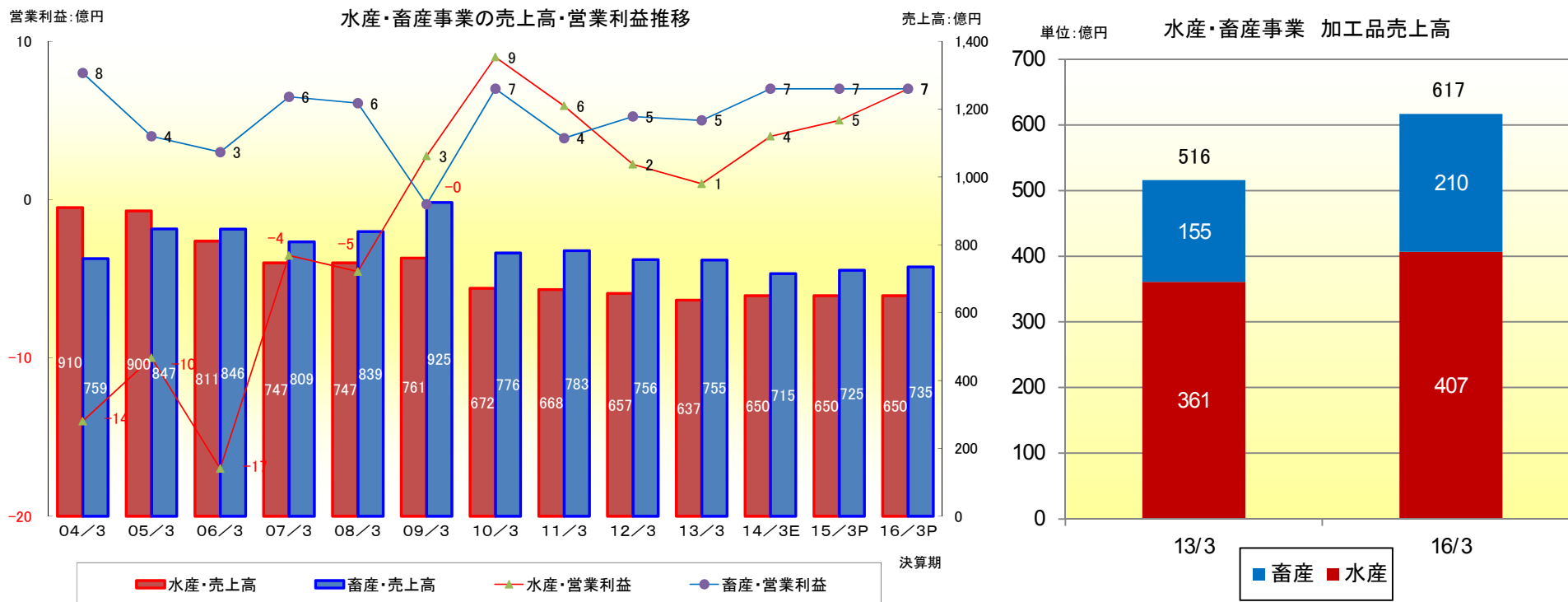
- ①濃縮果汁に加え、パウダーの販売をアジア・オセアニアで拡大。

新中計のポイント

水産・畜産事業

加工品の取扱比率を高め、収益構造を変革する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



1. 中食需要の拡大により素材品の消費が伸び悩む中、加工品の取扱比率を更に高め安定的な収益構造へ転換する。
2. 問屋ルートของผู้ーチャネルや中食等のユーザー向けに密着営業が可能な体制を整えコモディティ化しにくい個別提案型の加工品を拡販する。
3. 中計最終年度の加工品売上高を2012年度対比で約2割増加させる。

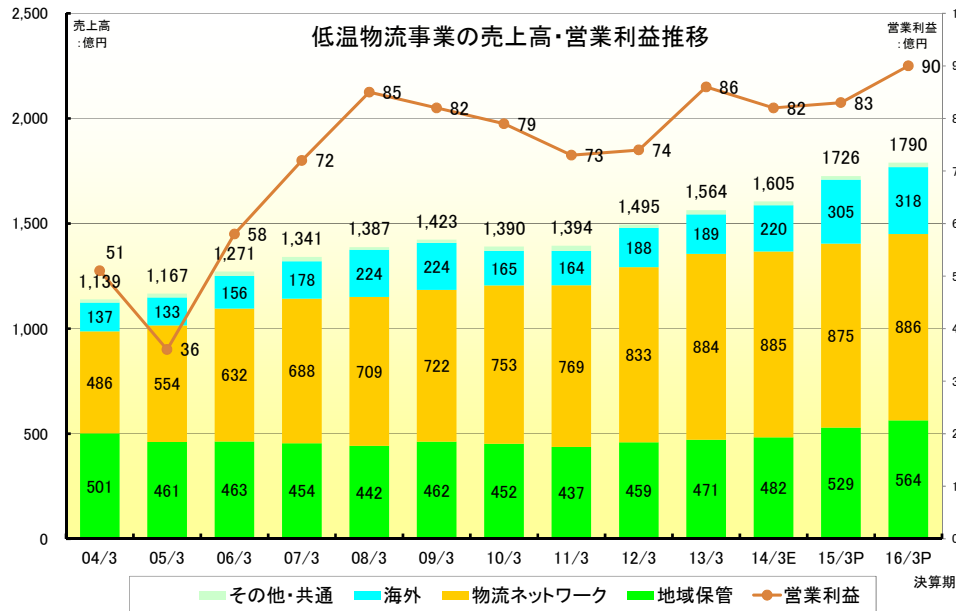
新中計のポイント

低温物流事業

- 事業環境の変化に合わせて成長戦略の見直しと基盤強化を進める
- 【地域保管】東京・大阪圏では能力増強、地方では運送需要の獲得を目指す
- 【物流ネットワーク】東京・大阪の輸配送拠点強化とTC事業領域拡大で取扱を伸ばす
- 【海外】欧州は事業基盤を拡充、東南アジアはタイを起点に足掛かりを築く

事業環境の変化に合わせて成長戦略の見直しと基盤強化を進める

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



営業利益の増減要因 (13/3-16/3)

単位: 億円

13/3期 営業利益	86
増益要因	20
運送事業拡大	3
新增設に伴う利益増	5
海外事業拡大	4
業務改善効果等	6
為替影響	2
減益要因	-16
新增設に伴う償却増影響	-9
電力料増	-5
その他(システム費用増等)	-2
16/3期 営業利益見込	90

1. 地域保管

- ① 需給がひっ迫する東京・大阪圏では積極的な設備投資で冷蔵倉庫の能力を拡大。
- ② 需給が均衡するその他地域では輸配送機能を強化し保管貨物の付帯業務獲得に注力。

2. 物流ネットワーク

- ① TC事業: 新規受託に加え、取扱温度帯の拡大を図る。
- ② 輸配送事業: 東京・大阪圏の拠点を強化しその営業に注力。その他地方の業務は地域保管事業に集約。

3. 海外

- ① 欧州は輸配送網拡大を継続。子会社間の相乗効果創出を進める。
- ② 東南アジアで新たな展開を進める。2013年9月にはタイで合併会社が稼働開始。

東京・大阪圏では能力増強、地方では運送需要の獲得を目指す

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

主な新設冷蔵倉庫(2000年以降)の状況とエリアシェアの変化

東京圏(13/3→14/3)

名称	稼働開始	能力 (万t)
東扇島DC(1期)	2011.02	4.0

東京・川崎地区シェア 8%

*現在の地区設備能力196万t

名称	稼働開始	能力 (万t)
東扇島DC(1期)	2011.02	4.0
川崎DC	2013.04	3.2
東扇島DC(2期)	2013.07	4.0

東京・川崎地区シェア 10%

大阪圏(13/3→15/3)

名称	稼働開始	能力 (万t)
北港DC	2010.02	2.0

大阪港湾地区シェア 20%

*現在の地区設備能力74万t

名称	稼働開始	能力 (万t)
北港DC	2010.02	2.0
咲洲DC(仮称)	2014秋	4.0

大阪港湾地区シェア 22%

営業利益の増減要因(13/3-16/3)

単位: 億円

13/3期 営業利益	46
増益要因	12
運送事業拡大	1
新增設に伴う利益増	3
物流ネットワーク事業より輸配送業務受管	3
業務改善効果等	5
減益要因	-10
新增設に伴う償却増影響	-6
電力料増	-3
16/3期 営業利益見込	48

1. 東京・大阪圏では能力増強によりシェアを拡大

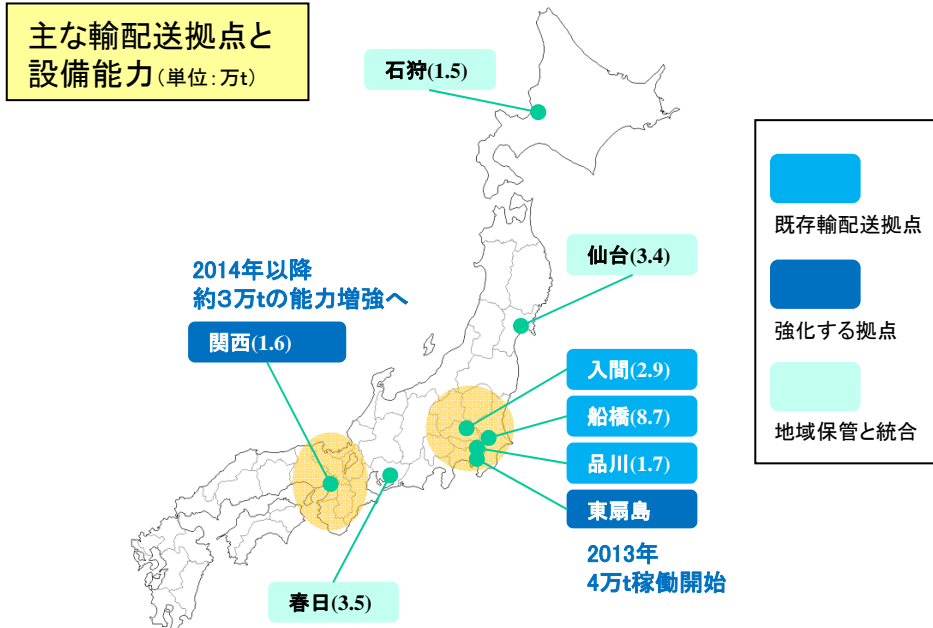
- ①大消費地や輸入港に近く需要が大きい東京・大阪圏では積極投資でシェアを強化。
- ②2015年以降建替の東京団地冷蔵(株)(能力15万t)など今後のスクラップ&ビルドをにらみ計画的増強を進める。

2. 需給が均衡する地方では輸配送業務を拡大

- ①中国・四国、北海道・東北、東海の各エリアでは物流ネットワーク事業から輸配送業務を移管し、保管顧客への一体営業を活発化させることで運送需要獲得を図る。

東京・大阪の輸配送拠点強化とTC事業領域拡大で取扱を伸ばす

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



営業利益の増減要因(13/3-16/3)

単位: 億円

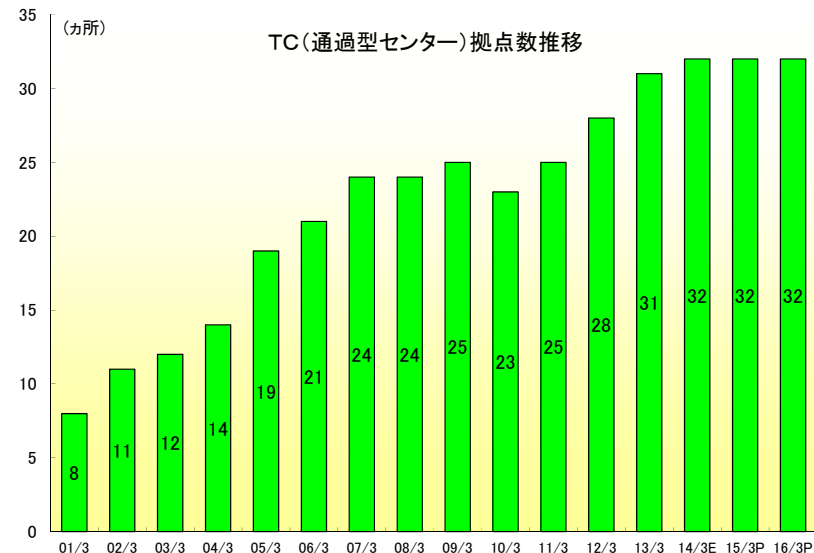
13/3期 営業利益	38
増益要因	5
運送事業拡大	2
新增設に伴う利益増	2
業務改善効果等	1
減益要因	-8
新增設に伴う償却増影響	-3
地域保管事業へ輸配送業務移管	-3
電力料増	-2
16/3期 営業利益見込	35

1. 東京・大阪圏では地域保管の能力拡大と連携し輸配送拠点を強化

- ① 東京は東扇島2期棟稼働にともない既設の1期棟を輸配送主体に活用。
- ② 大阪ではボトルネックだった能力を増強することで繁忙期も円滑な対応が可能に。

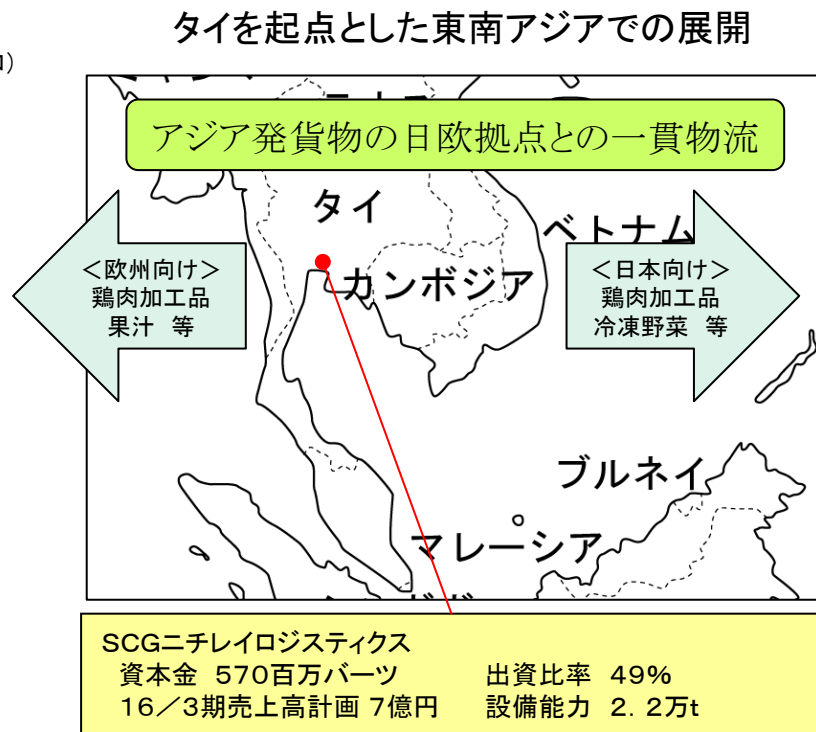
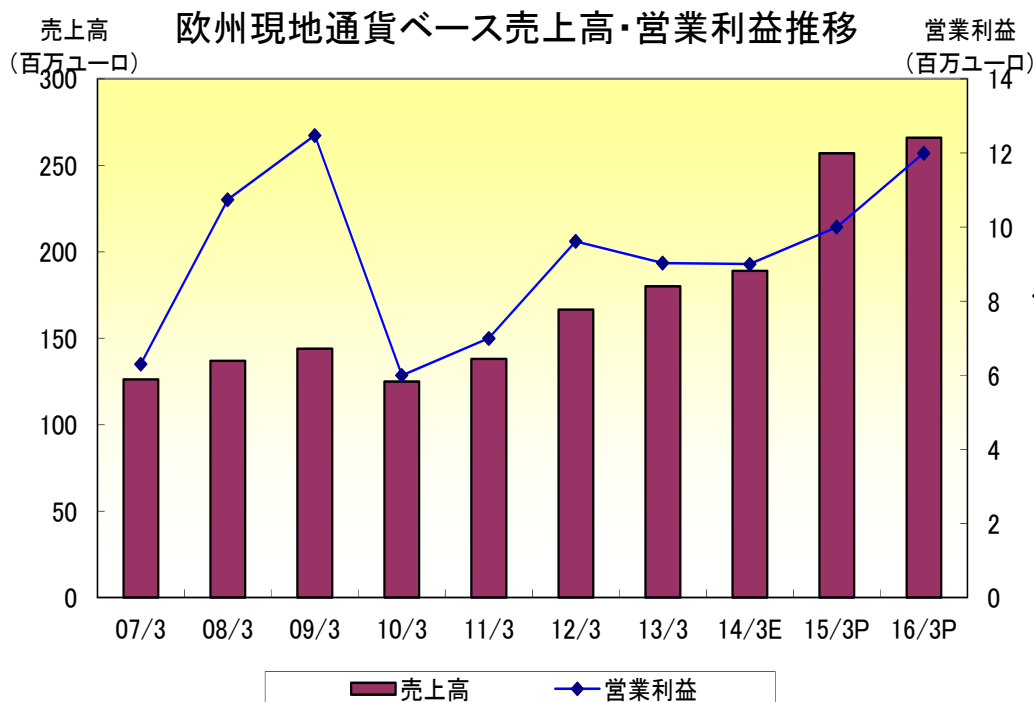
2. 地方の輸配送業務は地域保管事業と一体化を進める

3. TC事業は需要が一巡しつつあり、既存顧客を中心に常温を含む3温度帯への取組拡大で新たな需要を掘り起こす



欧州は事業基盤を拡充、東南アジアはタイを起点に足掛かりを築く

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



1. 西欧は事業基盤を拡充

- ① フランスリヨン物流センターが2013年10月に稼働、運送事業の面展開が進展。
- ② 今後も更なる事業基盤拡充のため、積極的な設備投資やM&Aを推進。

2. 東南アジアは新たな事業展開を図る

- ① タイではサイアムセメントグループとの合弁会社を設立し2013年9月より事業開始。
- ② タイ国内の保管・輸配送に加え、チキンや果汁等の輸出で日欧との国際一貫物流を推進。
- ③ ベトナム、マレーシアなどコールドチェーンの発展が見込まれる地域にも進出を検討。

新中計のポイント

財務戦略

ROEと営業キャッシュフロー配分

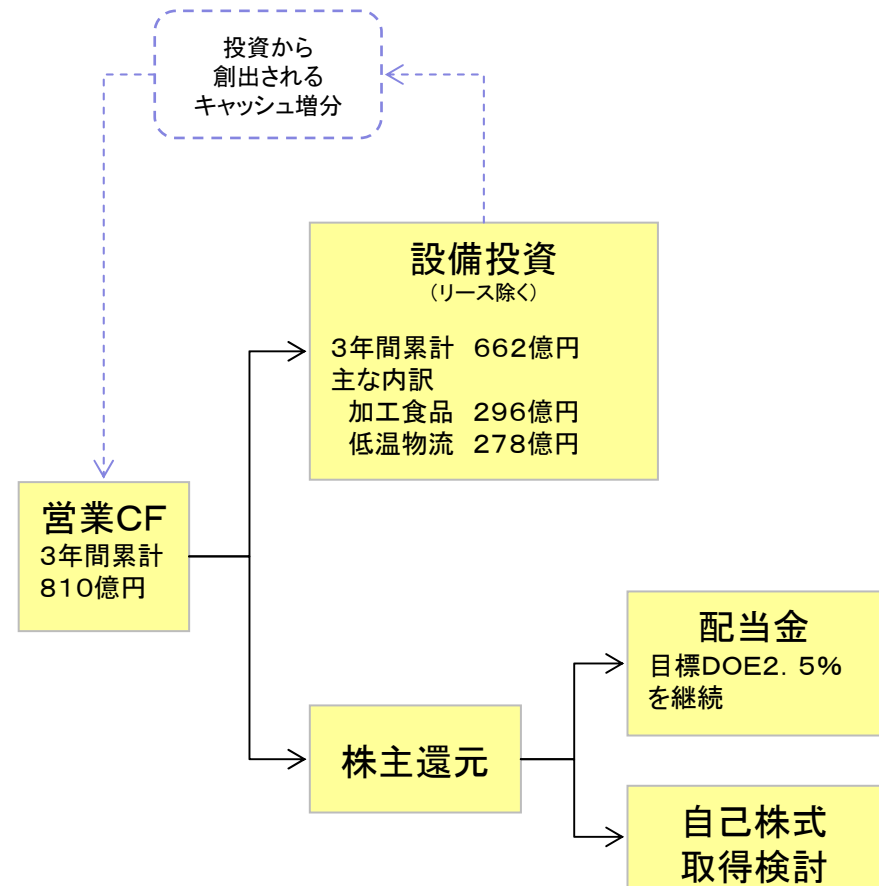
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

【ROE拡大の考え方】

ROE(連結株主資本利益率)計画
 13/3期 8.2%
 ↓
 16/3期 8.8%

	取組	傾向
売上高利益率	<ul style="list-style-type: none"> 事業投資による収益基盤の拡大 大型商品への集約による生産性改善 	↗
総資産回転率	<ul style="list-style-type: none"> 営業資金の適正な水準維持 不要資産の売却 	→
財務レバレッジ	<ul style="list-style-type: none"> 最適資本構成の維持 DEレシオは0.8を目指す 	→
	取組	残高見込み
有利子負債	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略を支える有利安定的な資金調達 財務の健全性を確保し格付けを維持 	→

【営業キャッシュフローの配分】



2013年度の施策と見込

<連結グループ>

連結業績見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円

	第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期		
	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比	
		増減	率		増減	率		増減	率
加工食品	959	54	6%	984	49	5%	1,943	103	6%
水産	330	17	5%	320	-4	-1%	650	13	2%
畜産	359	-7	-2%	356	-33	-8%	715	-40	-5%
低温物流	802	20	3%	803	21	3%	1,605	41	3%
不動産	23	-0	-1%	25	1	3%	48	1	1%
その他	16	-11	-42%	20	-10	-34%	36	-22	-38%
調整額	-93	8	-	-84	15	-	-177	23	-
売上高合計	2,396	80	3%	2,424	39	2%	4,820	119	3%
加工食品	21	-9	-31%	44	14	47%	65	5	8%
水産	2	3	-	2	-0	-8%	4	3	467%
畜産	3	1	28%	4	1	38%	7	2	33%
低温物流	40	-2	-4%	42	-2	-4%	82	-4	-4%
不動産	11	-0	-4%	12	1	5%	23	0	1%
その他	1	-1	-35%	3	0	8%	4	-0	-7%
調整額	-3	-2	-	-2	-4	-	-5	-5	-
営業利益合計	75	-10	-12%	105	10	11%	180	1	0%
経常利益	73	-9	-11%	100	10	12%	173	1	1%
当期純利益	45	-18	-29%	60	25	70%	105	7	7%
							ROE	8.6%	0.4%
							EPS	37円	3円 10%

- 1.急激な円安による原材料・燃油価格の上昇や電力料の値上影響などを受け厳しい事業環境が続くが、主力の加工食品、低温物流を中心に収益力の強化を進める。
- 2.売上高は主力の加工食品と低温物流が引き続き伸長。
- 3.営業利益は加工食品と前年の高値在庫入替後、利益改善が進む水産が低温物流の減益をカバー。
- 4.当期純利益は前年度に発生したGFPTニチレイの減損損失の影響などがなくなる。

原材料コスト対策とGFPTニチレイの収益性改善を進める

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

営業利益の増減要因(12/3-14/3)

単位:億円

単位:億円

	第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期			
	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		
		増減	率		増減	率		増減	率	
加工食品	売上高計	959	54	6%	984	49	5%	1,943	103	6%
	家庭用調理品	267	4	2%	284	4	2%	551	8	2%
	業務用調理品	419	9	2%	445	10	2%	864	19	2%
	健康価値	25	0	0%	24	8	47%	49	8	19%
	その他	248	41	20%	231	27	13%	479	68	16%
	営業利益	21	-9	-31%	44	14	47%	65	5	8%

12/3期 営業利益	52
増収効果	8
生産性改善	4
原材料・仕入コストの上昇	-1
その他	-3
13/3期 営業利益	60
減益要因	-75
円安による原材料・仕入コストの上昇	-65
原材料・仕入コストの上昇	-10
増益要因	80
価格改定などによるコスト吸収策	36
商品ミックスの改善など	13
GFPTニチレイの業績改善	10
増収効果	6
生産性改善	6
固定費の削減	5
その他	4
14/3期 営業利益見込	65

1.円安などによる原材料・仕入コスト上昇の影響と対策

- ①チキン加工品を中心に円安によるコスト上昇の影響が第1四半期より本格化。
- ②米などの一部原材料や海外OEMの仕入コストも上昇。
- ③価格改定やコスト削減に加え、商品ミックスの改善やGFPTニチレイの業績改善などにより増益を確保。

2.GFPTニチレイの収益性改善の施策

- ①第3の加工ライン稼働(6月予定)によりムネ肉、手羽類などの加工品化を推進。
- ②ガラなどの副産物を付加価値化した商品を開発中。

国内新設拠点の投資負担により減益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円

	第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期			
	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		
		増減	率		増減	率		増減	率	
低温物流	売上高計	802	20	3%	803	21	3%	1,605	41	3%
	物流ネットワーク	444	-1	0%	441	1	0%	885	1	0%
	地域保管	244	4	2%	238	7	3%	482	11	2%
	海外	109	16	17%	111	15	16%	220	31	17%
	その他・共通	5	1	19%	13	-2	-15%	18	-1	-7%
	営業利益計	40	-2	-4%	42	-2	-4%	82	-4	-4%
	物流ネットワーク	16	-4	-19%	17	-1	-8%	33	-5	-14%
	地域保管	23	-0	0%	22	-1	-5%	45	-1	-3%
	海外	4	0	4%	4	1	20%	8	1	11%
	その他・共通	-3	2	-	-1	0	-	-4	2	-

営業利益の増減要因(13/3-14/3)

単位: 億円

13/3期 営業利益	86
増益要因	5
運送事業効率化	1
新增設に伴う利益増	1
業務改善効果	2
為替影響	1
減益要因	-9
新增設に伴う償却増影響	-4
電力料増	-4
14/3期 営業利益見込	82

1. 国内の主な業績影響要因は以下の通り

- ① 東扇島2期棟稼働開始にともない保管能力や輸配送業務が強化されるが、初年度は償却費負担が重い。
- ② 今年度の電気料金値上げ影響は国内全体で約4億円。節電等の業務改善で対策を図るが、値上げ影響額すべてをカバーするまでには至らず。
- ③ TC新規受託は1件を予定。下期稼働開始予定につき影響は限定的。

2. 海外ではオランダ・ドイツが回復基調に入ったことに加え為替影響もあり堅調に推移。

* 今期より地域保管と物流ネットワークの輸配送業務移管にともない、セグメント間での入り繰りが発生している。
低温物流事業全体では影響はない。

參考資料

2012年度の連結業績

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円

	第2四半期(累計)			第3・4四半期(累計)			通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減	
加工食品	905	36	4%	935	63	7%	1,840	99	6%	1,850	-10	
家庭用調理品	263	5	2%	280	16	6%	543	21	4%	540	3	
業務用調理品	410	12	3%	435	22	5%	845	34	4%	841	4	
健康価値	25	-4	-14%	16	-5	-22%	41	-9	-17%	47	-6	
その他	207	23	13%	204	29	16%	411	52	14%	422	-11	
水産	313	-14	-4%	324	-6	-2%	637	-20	-3%	645	-8	
畜産	366	-9	-3%	389	9	2%	755	-1	0%	745	10	
低温物流	781	34	5%	782	34	5%	1,564	68	5%	1,540	24	
物流ネットワーク	444	32	8%	440	20	5%	884	52	6%	876	8	
地域保管	239	7	3%	231	5	2%	471	12	3%	467	4	
海外	93	-2	-2%	96	2	2%	189	0	0%	178	11	
その他・共通	4	-2	-36%	15	7	87%	19	5	32%	19	0	
不動産	23	-3	-11%	24	1	3%	47	-2	-4%	48	-1	
その他	27	-1	-5%	30	-1	-4%	58	-3	-4%	61	-3	
調整額	-101	7	-	-99	3	-	-200	10	-	-209	9	
売上高合計	2,316	50	2%	2,385	102	4%	4,701	152	3%	4,680	21	
加工食品	30	5	19%	30	4	15%	60	9	17%	60	0	
水産	-1	-6	-	2	4	-	1	-2	-	0	1	
畜産	2	-1	-28%	3	1	46%	5	-0	-0%	7	-2	
低温物流	41	5	14%	44	6	17%	86	12	16%	79	7	
物流ネットワーク	19	7	54%	18	2	11%	38	9	30%	35	3	
地域保管	23	2	7%	23	4	18%	46	5	12%	44	2	
海外	3	-2	-34%	3	-0	-3%	7	-2	-22%	6	1	
その他・共通	-4	-1	-	-1	1	-	-6	-0	-	-6	0	
不動産	11	-1	-7%	11	0	2%	23	-1	-3%	22	1	
その他	1	-0	-19%	3	-0	-5%	4	-1	-11%	4	0	
調整額	-1	-1	-	-2	1	-	0	-0	-	-2	2	
営業利益合計	84	1	2%	95	16	21%	179	18	11%	170	9	
経常利益	82	4	5%	90	15	21%	172	20	13%	163	9	
当期純利益	63	21	50%	35	-2	-5%	98	19	24%	92	6	
							ROE	8.2%	1.4%		7.7%	0.5%
							EPS	33円	7円	27%	31円	2円

2013年3月期通期 連結バランスシートの変動要因

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（未満切り捨て）

科目	13/3	12/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,238	1,154	83	①
固定資産	1,740	1,750	△9	
資産の部合計	2,979	2,905	73	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	1,006	841	165	②
固定負債	718	876	△157	②
負債の部合計	1,725	1,718	7	
純資産の部	1,253	1,187	66	③
（うち株主資本）	1,188	1,165	22	
有利子負債	968	978	△9	
（うちリース債務除く）	754	748	5	
科目	13/3	12/3	増減	
設備投資額	120	116	4	④
（うちリース資産除く）	97	89	7	
減価償却費	143	149	△6	
（うちリース資産除く）	105	111	△6	

【主な増減要因】

- ① 現金及び預金＋43（手元流動性の確保など）
売上債権＋37（加工食品と低温物流の増収など）
- ② 一年以内長期借入金の振替（長期△140、短期＋140）
- ③ 当期純利益＋98
配当金の支払い△29
- ④ 設備投資の主な内訳
低温物流
咲洲（仮称）DC、寒河江TC

2013年3月期通期 営業外収支・特別損益の変動要因

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(未満切り捨て)

プラス表示は利益を示す		通 期				
		13/3	12/3	前回見込	前年同期間 比増減	前回見込 比増減
【営業外収支】		-7	-9	-7	1	-0
(主要項目)						
金融収支		-8	-8	-10	-0	1
【特別損益】		-36	-10	-29	-25	-7
(主要項目)						
投資有価証券売却益		10	1	10	9	0
固定資産売却益		4	7	4	-2	0
事業譲渡益		1	—	1	1	0
災害損失引当金戻入額		—	4	—	-4	—
固定資産売却損・除却損		-3	-5	-4	1	0
減損損失	①	-46	-5	-40	-40	-6
災害による損失		—	-3	—	3	—
投資有価証券評価損		—	-6	—	6	—

① GFPTニチレイの固定資産の減損など

財務戦略の考え方と前中計の振り返り

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする 

財務戦略	前中計の振り返り
<p>1. 事業に必要な資金をいつでも有利安定的に調達する</p> <p>(1) 財務の健全性維持 発行体格付A(シングルAフラット)を維持する</p> <p>DEレシオ0.8</p> <p>債務償還年数5年以内</p> <p>固定長期適合比率0.9以下</p> <p>(2) 調達手法・源泉の多様化</p>	<p>⇒普通社債200億円(5年、7年)の発行</p>
<p>2. 資本効率(投資リターン>資本コスト)</p> <p>(1) バランスシートのスリム化</p> <p>(2) 資本コストの圧縮</p> <p>最適資本構成DEレシオ0.8</p>	<p>⇒2012年度のROEは8.2%</p> <p>⇒DEレシオは0.8程度を維持</p>
<p>3. 株主還元</p> <p>(1) 利益還元として継続的な配当金</p> <p>DOE2.5%(中長期的に配当性向25%)</p> <p>(2) 自己株式取得・消却</p> <p>効率性、成長性、健全性のバランスを保つ</p>	<p>⇒配当金は目標DOE2.5%に向けて、年間配当9円から10円に増配</p> <p>⇒自己株式23百万株を取得(うち、15百万株を消却)</p>

各中計期間の業績の推移

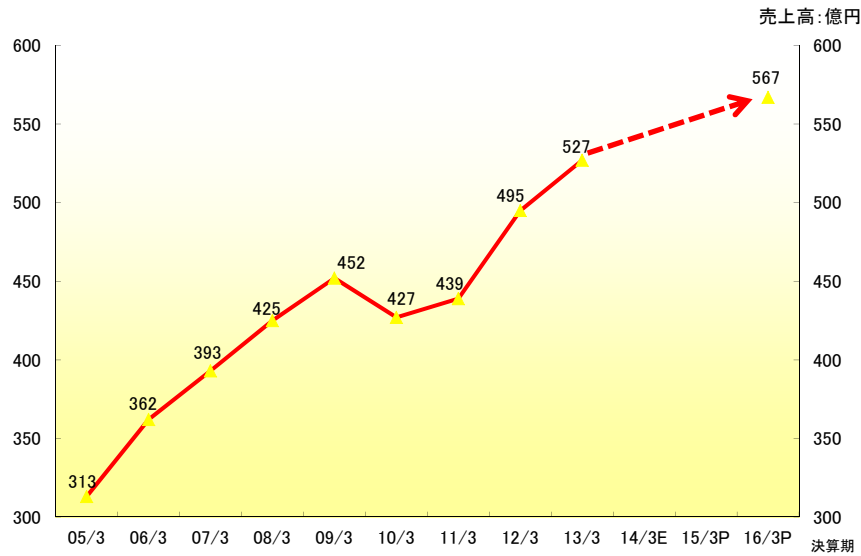
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円

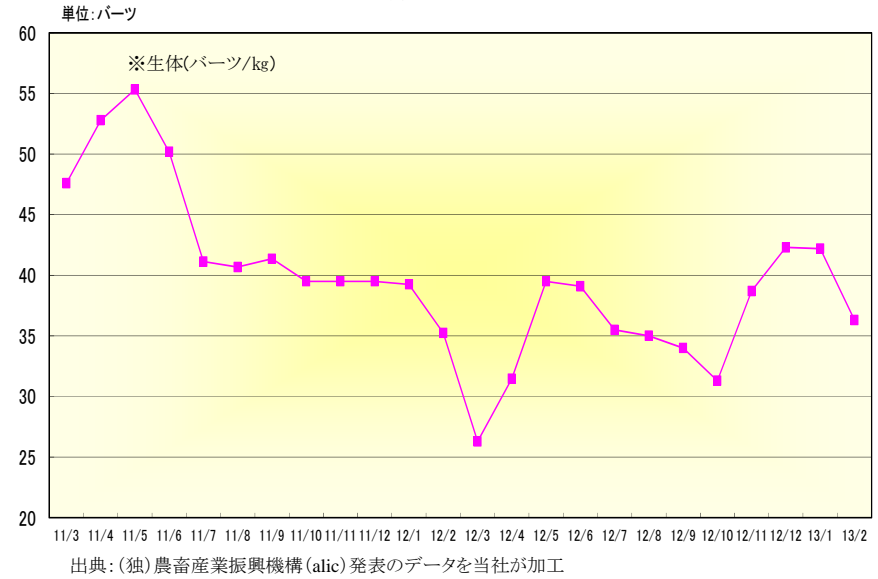
	中計(04~06年度)			中計(07~09年度)			energy 2012 (10~12年度)			RISING 2015 (13~15年度)		
	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3E	15/3P	16/3P
加工食品事業	1,785	1,848	1,773	1,750	1,740	1,621	1,619	1,742	1,840	1,943	1,975	2,030
水産事業	900	811	747	747	761	672	668	657	637	650	650	650
畜産事業	847	846	809	839	925	776	783	756	755	715	725	735
低温物流事業	1,167	1,271	1,341	1,387	1,423	1,390	1,394	1,495	1,564	1,605	1,726	1,790
不動産事業	92	100	79	75	74	70	66	49	47	48	48	48
その他の事業	82	87	70	63	66	69	62	60	58	36	40	45
調整額	△ 260	△ 270	△ 241	△ 226	△ 244	△ 217	△ 215	△ 210	△ 200	△ 177	△ 194	△ 198
売上高合計	4,614	4,694	4,577	4,636	4,745	4,381	4,378	4,549	4,701	4,820	4,970	5,100
加工食品事業	43	55	60	41	20	26	46	52	60	65	73	82
水産事業	△ 10	△ 17	△ 4	△ 5	3	9	6	2	1	4	5	7
畜産事業	4	3	6	6	△ 0	7	4	5	5	7	7	7
低温物流事業	36	58	72	85	82	79	73	74	86	82	83	90
不動産事業	60	61	45	43	40	37	36	24	23	23	21	21
その他の事業	2	1	1	2	2	4	4	5	4	4	4	5
調整額	△ 0	△ 1	0	1	4	7	△ 2	0	0	△ 5	△ 7	△ 8
営業利益合計	135	160	181	174	151	168	167	162	179	180	186	204
経常利益	129	157	174	169	142	155	161	153	172	173	179	197
当期純利益	59	63	108	96	60	91	40	79	98	105	110	120
設備投資額(リース資産を含む)	—	—	—	—	140	236	211	117	121	283	274	213
(リース資産を除く)	50	66	90	70	119	173	172	89	97	248	244	169
有利子負債(リース債務を含む)	—	—	—	—	1,105	858	970	978	969	948	1,019	1,013
(リース債務を除く)	1,120	862	730	661	879	609	725	748	754	739	822	826
D/Eレシオ(倍)	—	—	—	—	1.0	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7
(リース債務を除く)	1.2	0.8	0.6	0.6	0.8	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
自己資本比率(%)	34.0	38.2	41.3	44.3	38.6	43.1	40.4	40.2	41.3	42	42	43
ROE(%)	6.4	6.4	10.1	8.5	5.3	7.9	3.4	6.8	8.2	8.6	8.6	8.8

注: リース会計基準の変更に伴い、09/3よりリース資産、リース債務をオンバランス化

当社のチキン加工品の売上高推移(日本国内販売のみ)

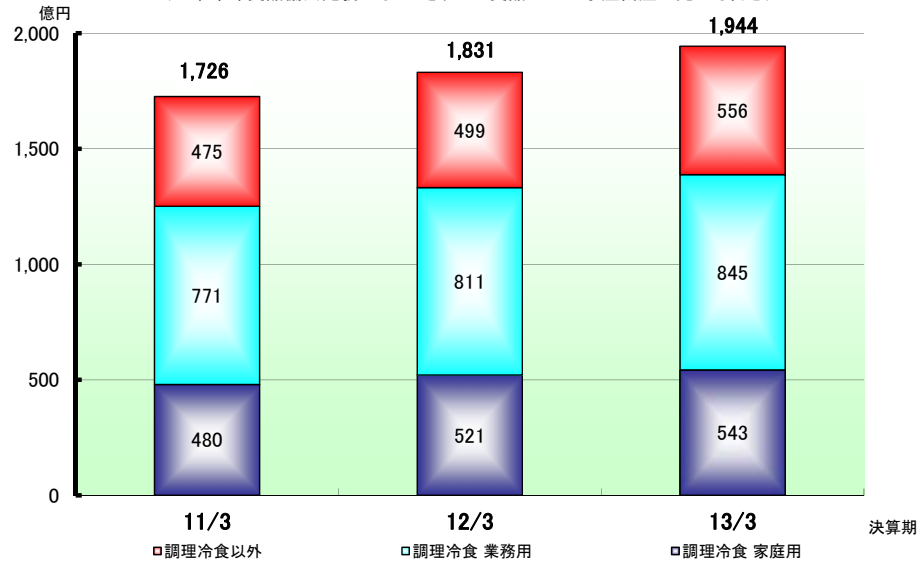


タイ国内鶏肉卸売価格の推移

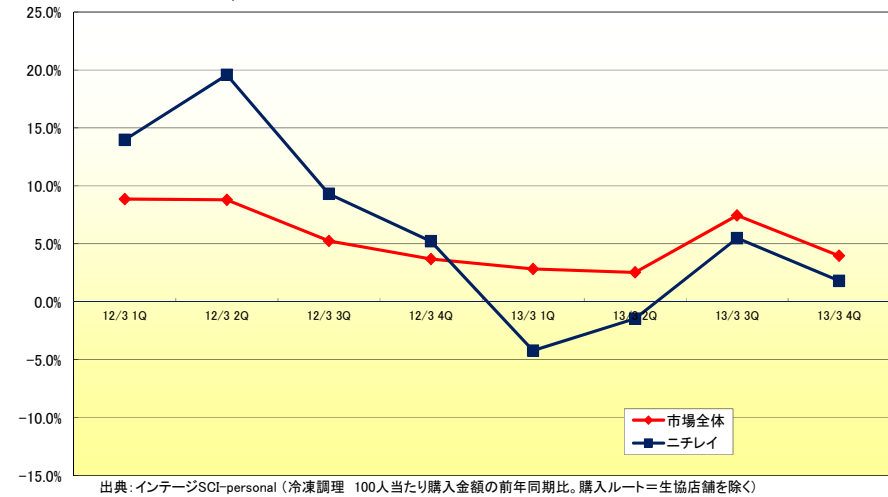


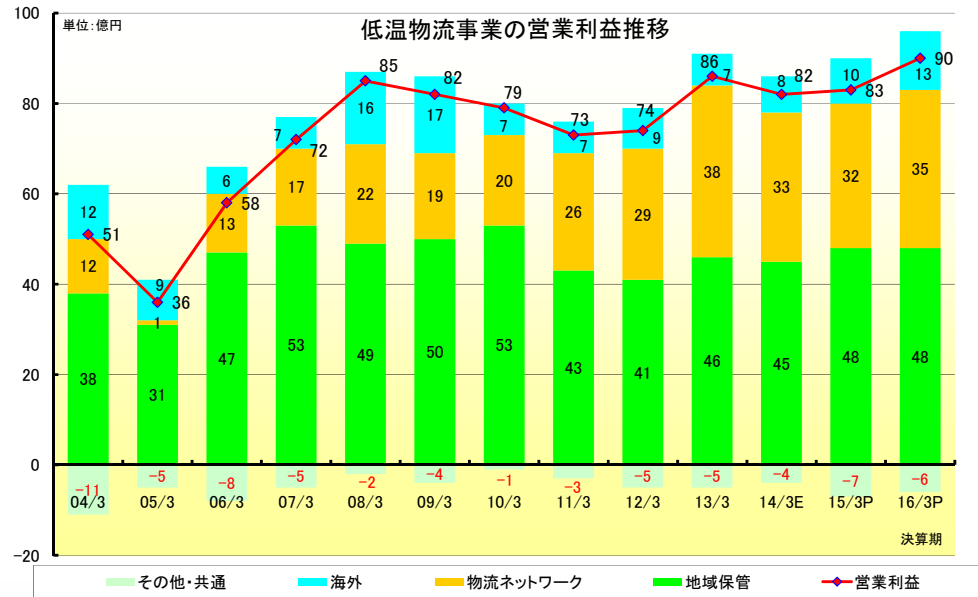
冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



増減率 SCI-personal 家庭用調理冷凍食品100人当たり購入データの前年比推移





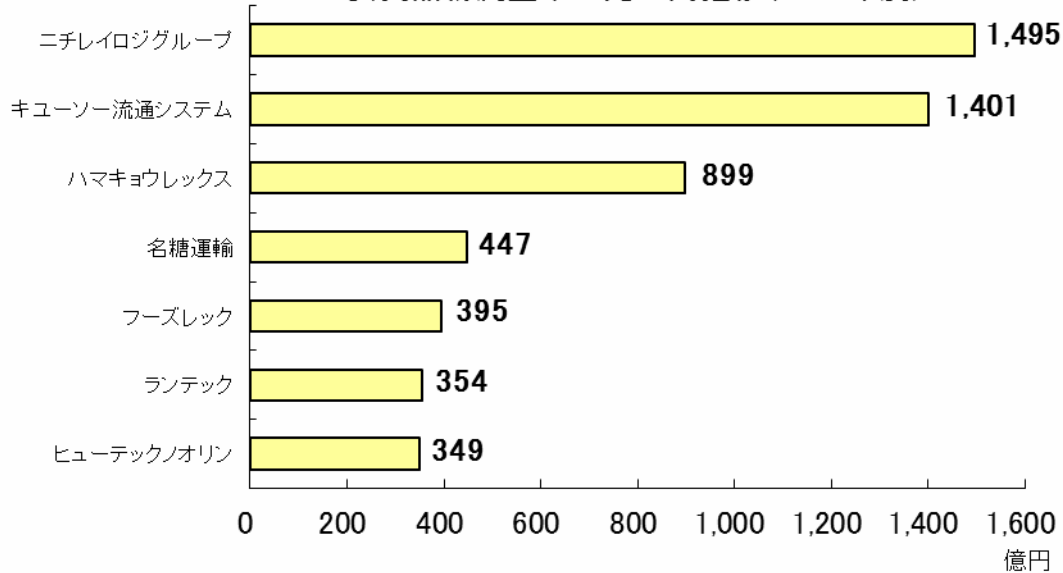
冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア上位20社

(2013年1月1日現在) (日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

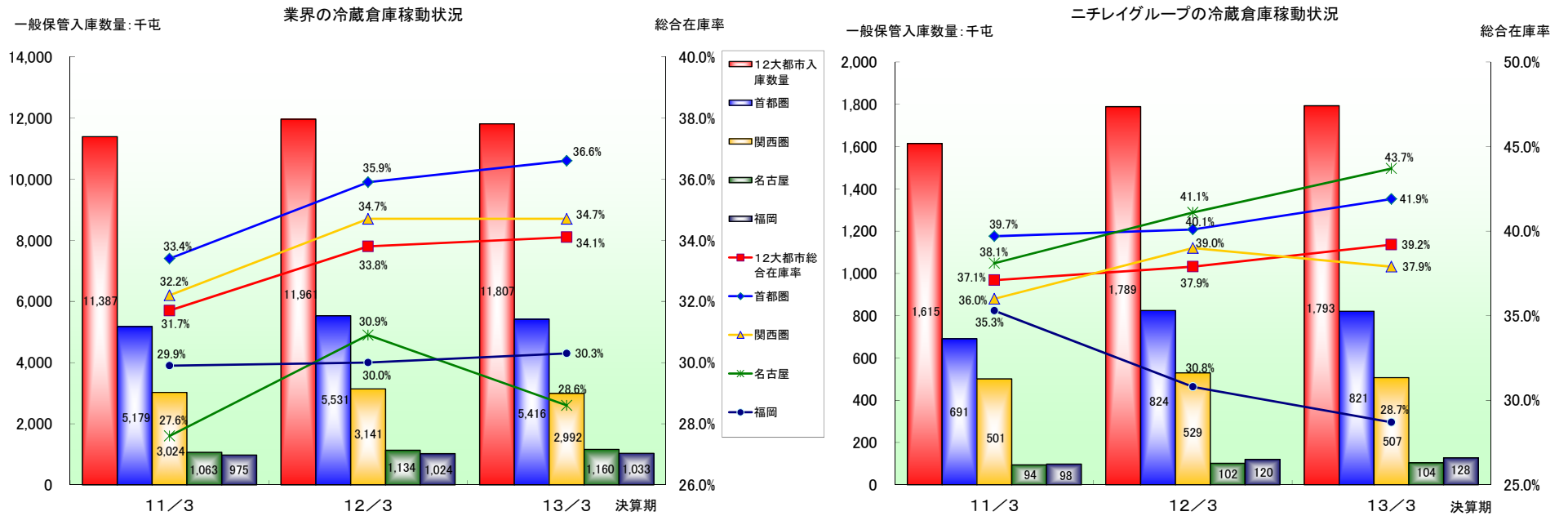
順位	社名・グループ名	拠点数	能力トン	12/11比増減	能力シェア	主たる営業地域
1	ニチレイグループ	77	135	-3	12%	全国
2	横浜冷凍	43	74	2	6%	全国
3	マルハニチログループ	37	58	0	5%	全国
4	東洋水産グループ	23	42	1	4%	全国
5	日本水産グループ	22	38	0	3%	全国
6	ヒューテックノオリン	14	27	3	2%	全国
7	五十嵐冷蔵	11	22	0	2%	関東
8	二葉	8	17	0	1%	関東
9	兵食	10	17	0	1%	関西
10	鴻池運輸	13	17	0	1%	全国
11	松岡	6	16	0	1%	関東、関西、九州
12	キューソー流通システム	23	14	0	1%	全国
13	寶船冷蔵	4	14	0	1%	関西
14	ハウスイ	9	12	0	1%	関東
15	港湾冷蔵	6	10	0	1%	関東、関西、九州
16	山手冷蔵	5	10	0	1%	関東
17	東京豊海冷蔵	3	7	0	1%	関東
18	川西倉庫	6	7	1	1%	関東、関西
19	三菱倉庫	6	7	0	1%	関東
20	辻野	6	7	0	1%	関東、東北、九州
	その他	1,227	615	-	53%	
	合計	1,559	1,163	-	100%	

注：震災影響によりその他と合計の12/11比増減の項目は計算していない

主要食品物流企業の売上高推移(2011年度)



冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。